

物品税法案

改正法

物品税法

第一條 左ニ掲グル物品ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニハ本法ニ依リ物品税ヲ課ス

第一種

甲類

- 一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品
- 二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品
- 三 貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品
- 四 龜甲製品
- 五 珊瑚製品
- 六 琥珀製品
- 七 象牙製品
- 八 七寶製品
- 九 毛皮又ハ毛皮製品
- 十 羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品

現行法

支那事變特別税法及輸出菓子糖果原料砂糖戻税法中物品税ニ關スル規定

第一條 當分ノ内本法ニ依リ：：物品税：：ヲ課ス

第三十八條 物品税ハ左ニ掲グル物品ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ之ヲ課ス

第一種

甲類

- 一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品
- 二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品
- 三 貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品
- 四 龜甲製品
- 五 珊瑚製品
- 六 毛皮又ハ毛皮製品
- 七 羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品

乙類

- 十一 時計
- 十二 文房具
- 十三 身邊用細貨類
- 十四 化粧用具
- 十五 喫煙用具
- 十六 帽子、杖、鞭及傘
- 十七 靴及トランク
- 十八 靴及履物
- 十九 書畫及骨董
- 二十 室内裝飾用品
- 二十一 盆栽、盆石及鉢植類
- 二十二 愛玩用動物及同用品
- 二十三 玩具
- 二十四 運動具
- 二十五 照明器具
- 二十六 電氣器具及瓦斯器具
- 二十七 圍碁及將棋用具
- 二十八 家具
- 二十九 漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ
- 三十 貴金屬ヲ鍍シ又ハ張りタル製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ

第二種

甲類

- 一 寫真機、寫真引伸機、映寫機、同部分品及附屬品
- 二 寫真用ノ乾板、フィルム及感光紙
- 三 蓄音器及同部分品
- 四 蓄音器用レコード
- 五 樂器、同部分品及附屬品
- 六 雙眼鏡及隻眼鏡
- 七 銃及同部分品
- 八 藥莢及彈丸
- 九 ゴルフ用具、同部分品及附屬品
- 十 娛樂用ノモーターボート、スカール及ヨット
- 十一 撞球用具
- 十二 ネオン管及同變壓器
- 十三 喫煙用ライター
- 十四 乗用自動車
- 十五 化粧品

乙類

- 八 時計
- 九 文房具
- 十 身邊用細貨類
- 十一 化粧用具
- 十二 喫煙用具
- 十三 帽子、杖、鞭及傘
- 十四 靴及トランク
- 十五 靴及履物
- 十六 書畫及骨董
- 十七 室内裝飾用品

第二種

甲類

- 一 寫真機、寫真引伸機、映寫機、同部分品及附屬品
- 二 寫真用ノ乾板、フィルム及感光紙
- 三 蓄音器及同部分品
- 四 蓄音器用レコード
- 五 樂器、同部分品及附屬品
- 六 雙眼鏡及隻眼鏡
- 七 銃及同部分品
- 八 藥莢及彈丸
- 九 ゴルフ用具、同部分品及附屬品
- 十 娛樂用ノモーターボート、スカール及ヨット
- 十一 撞球用具
- 十二 ネオン管及同變壓器
- 十三 喫煙用ライター
- 十四 乗用自動車
- 十五 化粧品

乙類

- 十六 ラヂオ聴取機及同部分品
- 十七 受信用真空管、擴聲用增幅器及擴聲器
- 十八 扇風機及同部分品
- 十九 暖房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ
- 二十 冷蔵庫及同部分品
- 二十一 金庫及鋼鐵製家具
- 二十二 化粧石鹼、シャンプー、洗粉及齒磨
- 二十三 茶、珈琲及其ノ代用物並ニココア
- 二十四 嗜好飲料但シ酒類及清涼飲料ヲ除ク

第三種

- 一 燐寸
- 二 飴、葡萄糖及麥芽糖

同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ、甲類及乙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲類トス

第二條 物品稅ノ稅率左ノ如シ

第一種

- 甲類 物品ノ價格百分ノ二十
- 乙類 物品ノ價格百分ノ十

第二種

乙類

- 十六 ラヂオ聴取機及同部分品
- 十七 受信用真空管、擴聲用增幅器及擴聲器
- 十八 扇風機及同部分品
- 十九 暖房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ
- 二十 冷蔵庫及同部分品
- 二十一 金庫及鋼鐵製家具
- 二十二 シャンプー及洗粉
- 二十三 紅茶、珈琲及其ノ代用物並ニココア
- 二十四 嗜好飲料但シ酒類及清涼飲料ヲ除ク

第三種

- 一 燐寸
- 二 酒類但シ濁酒ヲ除ク
- 三 飴、葡萄糖及麥芽糖

同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ、甲類及乙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲類トス

第三十九條 物品稅ノ稅率左ノ如シ

第一種

- 甲類 物品ノ價格百分ノ十五
- 乙類 物品ノ價格百分ノ十

第二種

- 甲類 物品ノ價格百分ノ二十
- 乙類 物品ノ價格百分ノ十

第三種

- 一 燐寸 千本ニ付 五錢
- 二 飴、葡萄糖及麥芽糖
 - イ 麥芽糖化ノ方法ニ依リ製造シタル飴 百斤ニ付 二圓
 - ロ 其ノ他ノ飴並ニ葡萄糖及麥芽糖 百斤ニ付 二圓五十錢

第三條 前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

- 甲類 物品ノ價格百分ノ十五
- 乙類 物品ノ價格百分ノ十

第三種

- 一 燐寸 千本ニ付 五錢
- 二 酒類
 - イ 清酒、白酒、味淋、燒酎及麥酒 一石ニ付 十圓
 - ロ 葡萄酒(酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ二ニ規定スルモノ以下同ジ)及果實酒(酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ三ニ規定スルモノ以下同ジ) 一石ニ付 十五圓
 - ハ 其ノ他ノ酒類ニシテ酒精及酒精含有飲料稅法ノ適用ヲ受クルモノ 一石ニ付 十四圓
- 三 飴、葡萄糖及麥芽糖
 - イ 麥芽糖化ノ方法ニ依リ製造シタル飴 百斤ニ付 一圓五十錢
 - ロ 其ノ他ノ飴並ニ葡萄糖及麥芽糖 百斤ニ付 二圓

第四十條 前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及燐寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 物品稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ小
賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル
物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラ
ルル物品ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取ラレタル物品ノ價
格又ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第五條 物品稅ハ第一種第十九號ニ掲グル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札其ノ
他競争ノ方法ニ依リ賣買セラレル場合ニシテ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ
之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物
品ヲ販賣スルモノト看做ス

第六條 製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ノ爲化粧品、化粧石鹼、シャンプー、
洗粉、齒磨又ハ嗜好飲料ヲ容器ニ充填シ又ハ改装スルトキハ之ヲ化粧品、
化粧石鹼、シャンプー、洗粉、齒磨又ハ嗜好飲料ノ製造ト看做ス

第七條 左ニ掲グル場合ニ於テハ嗜好飲料、餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ハ之ヲ製
造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

一 嗜好飲料ヲ製造場内ニ於テ飲用シタルトキ
二 餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ製造場内ニ於テ餡、葡萄酒又ハ麥芽糖以外ノ
製品ノ原料トシテ使用シタルトキ

第八條 第一種ノ物品ノ小賣業者ハ毎月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名
毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ

製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告
書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其
ノ品名毎ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ
第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ命令ヲ以テ定ムル場
合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ
申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府
ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第九條 小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於
テハ命令ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ稅額ヨリ其ノ物品ニ
課セラレタル物品稅ニ相當スル金額ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種
ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シタル場合亦同ジ
製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シタル場合ニ於
テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スルモ更ニ物品稅ノ
徵收ヲ爲サズ

第十條 物品稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第四條但書ノ場合ニ
於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

命令ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔
保ヲ提供シタルトキハ一月以内物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

關稅法第三十四條但書ノ規定ニ依リ保稅地域ヨリ引取ル物品ニ付テハ第一

前項ノ價格及燐寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十一條 物品稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應
ジ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレ
タル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引
取ラレタル物品ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取ラレタル物品
ノ價格又ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第四十二條 物品稅ハ第一種第十六號ニ掲グル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札
其ノ他競争ノ方法ニ依リ賣買セラレル場合ニシテ命令ヲ以テ定ムル場合ニ
限リ之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物
品ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十三條 製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ノ爲化粧品、シャンプー、洗粉又
ハ嗜好飲料ヲ容器ニ充填シ又ハ改装スルトキハ之ヲ化粧品、シャンプー、
洗粉又ハ嗜好飲料ノ製造ト看做ス

第四十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ嗜好飲料、酒類、餡、葡萄酒又ハ麥芽
糖ハ之ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

一 嗜好飲料又ハ酒類ヲ製造場内ニ於テ飲用シタルトキ
二 餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ製造場内ニ於テ餡、葡萄酒又ハ麥芽糖以外ノ
製品ノ原料トシテ使用シタルトキ

第四十五條 第一種ノ物品ノ小賣業者ハ毎月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品
名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其

製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申
告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付
其ノ品名毎ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ
第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ命令ヲ以テ定ムル場
合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ
申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府
ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第四十六條 小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合
ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ稅額ヨリ其ノ物
品ニ課セラレタル物品稅ニ相當スル金額ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第
二種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シタル場合亦同ジ
製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製
造場外ヨリ移入シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造
場ヨリ移出スルモ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サズ但シ第四十八條第一項ニ規定
スル政府ノ承認ヲ受ケテ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタル酒類ニ付テハ
此ノ限ニ在ラズ

第四十七條 物品稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第四十一條但書
ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

命令ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔
保ヲ提供シタルトキハ一月内物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

項但書ノ規定ニ拘ラズ輸入免許ヲ受ケタル際物品税ヲ納付スベシ此ノ場合

ニ於テハ引取ノ際其ノ税金ノ擔保ヲ提供スルコトヲ要ス

第十一條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保税地域ヨリ引取ル第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ第四條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品税ヲ徴收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ減失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品税ヲ免除ス

第十二條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保税地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ物品税ヲ免除ス

一 第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル第二種ノ物品

二 飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ノ製造ノ用ニ供スル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖

三 輸出スル菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ノ製造ノ用ニ供スル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖

前條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先若ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノ又ハ移出先若ハ引取先ニ移入前其ノ用途ヲ變更セラレタルモノニ付之ヲ準用ス

第一項ノ物品ヲ移出先又ハ引取先ニ移入後其ノ用途ヲ變更シタル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項第三號ノ規定ニ依リ物品税ノ免除ヲ受ケタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ使用シテ菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ヲ製造シタル者ガ之ヲ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シタルコトヲ證明セザル場合ニ於テハ製造者ヨリ直ニ其ノ物品税ヲ徴收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ減失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 左ニ掲グル物品ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品税ヲ免除ス

一 輸出スルモノ

二 學術研究用ニ供スルモノ

三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スルモノ

第十一條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第十四條 物品税ヲ課セラレタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ原料トシテ製造シタル菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ヲ輸出シタルトキハ輸出者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ原料トシテ使用シタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付課セラレタル物品税ニ相當スル金額以下ノ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者又ハ第二種若ハ第三種

第四十八條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場

ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保税地域ヨリ引取ル第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品税ヲ徴收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ減失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品税ヲ免除ス

第四十九條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保税地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ物品税ヲ免除ス

一 第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル第二種ノ物品

二 酒類製造ノ用ニ供スル葡萄酒及果實酒

前條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先若ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノ又ハ其ノ用途ヲ變更セラレタルモノニ付之ヲ準用ス

第五十條 左ニ掲グル物品ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品税ヲ免除ス

一 輸出スルモノ

二 學術研究用ニ供スルモノ

三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スルモノ

第四十八條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

輸出菓子糖果原料砂糖戻税法

第一條 ……物品税ヲ課セラレタル飴、葡萄酒若ハ麥芽糖ヲ用キ製造シタル菓子又ハ糖果ヲ外國へ輸出シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ使用シタル……飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ對シ……物品税ニ相當スル金額以下ノ金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五十一條 第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者又ハ第二種若ハ第三種

物品ヲ製造セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スベシ其ノ小
賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第十六條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ命令ノ定
ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ
第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ命令ノ定
ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ
第十七條 收稅官吏ハ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者
ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處
分ヲ爲スコトヲ得

一 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スル
モノ

二 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切
ノ帳簿書類

三 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建
築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第十八條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタ
ル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ
直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓ト
ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

二 政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種若ハ第三
種ノ物品ヲ製造シタル者

前項第二號ニ規定スル者ニ付テハ直ニ其ノ小賣シタル第一種ノ物品又ハ製
造シタル第二種若ハ第三種ノ物品ニ對スル物品稅ヲ徵收ス

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十六條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱
匿シタル者

二 第十六條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第十七條ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ
陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第二十一條 第十八條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第

三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條
及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第二十二條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、
戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタ
ルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十三條 本法ニ於テ保稅地域トハ關稅法ニ定ムル保稅地域ヲ謂フ

ノ物品(酒類ヲ除ク)ヲ製造セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申
告スベシ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第五十二條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ命令ノ
定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ
第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ命令ノ定
ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ
第五十四條 收稅官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造
者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監
督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スル
モノ

二 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切
ノ帳簿書類

三 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建
築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第五十六條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅：ヲ逋脱シ又ハ逋脱セン
トシタル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金
ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二
十圓トス

第五十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

二 第四十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種若ハ第三
種ノ物品(酒類ヲ除ク)ヲ製造シタル者

前項第三號ニ規定スル者ニ付テハ直ニ其ノ小賣シタル第一種ノ物品又ハ製
造シタル第二種若ハ第三種ノ物品(酒類ヲ除ク)ニ對スル物品稅ヲ徵收ス

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第五十二條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又
ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第五十二條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第五十四條ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ
爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避
シタル者

第五十九條 第五十六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但
書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六

十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第六十條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、
戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法中物品稅
ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第六十一條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ：本法ニ依リ課ス
ル：物品稅：ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第六十三條 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

第二十四條 關稅定率法第七條第十七號ノ規定ハ第十二條第一項第三號ノ規

定ニ依リ物品稅ヲ免除セラレタル飴、葡萄酒若ハ麥芽糖ヲ原料トシテ製造
シ又ハ第十四條ノ規定ニ依リ交付金ヲ交付セラレタル菓子、糖果其ノ他命
令ヲ以テ定ムル物品ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第二十五條 自己又ハ其ノ家族ノ用ニノミ供スル第二種ノ物品又ハ飴ヲ製造
スル者ニハ當該物品ニ付本法ヲ適用セズ

附則

第二十六條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十四條ノ規定
ハ昭和十五年四月三十日以前ノ輸出ニ係ル菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定
ムル物品ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十七條 第九條ノ適用ニ付テハ支那事變特別稅法ニ依リ課セラレタル物
品稅ハ之ヲ本法ニ依リ課セラレタル物品稅ト看做ス

第二十八條 支那事變特別稅法第四十八條第一項、第四十九條第一項又ハ第
五十條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル物品ハ各第十一條第一項、第十二條
第一項又ハ第十三條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十九條 支那事變特別稅法第三十八條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ
營ム者又ハ同第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同法ニ依リ其
ノ旨ヲ申告シタルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト
看做ス

第三十條 本法施行前ヨリ引續キ左ニ掲グル第一ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又
ハ第二ノ物品ノ製造ヲ爲ス者本法施行後一月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告ス

ルトキハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第一 琥珀製品、象牙製品、七寶製品、盆栽盆石及鉢植類、愛玩用動物及同
用品並ニ菓子

第二 化粧石鹼、齒磨及茶(紅茶ヲ除ク)

第三十一條 第一條ニ掲グル第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ
本法施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當ス
ル物品ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ
製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ於テ其
ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ第一號ノ物品ニ付テハ第一條
各號ニ掲グル品名毎ニ價格三千圓、飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付テハ一萬斤
ヲ超ユル部分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ支那事變
特別稅法ニ依リ物品稅ヲ課セラレタル物品ニ付テハ其ノ課セラレタル稅額
ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

一 第一條ニ掲グル第二種第一號乃至第十五號、第二十二號(化粧石鹼及
齒磨ニ限ル)又ハ第二十三號(紅茶以外ノ茶ニ限ル)ノ物品ニシテ同條各
號ニ掲グル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユルモノ

二 飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ニシテ合計斤數一萬斤ヲ超ユルモノ
前項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格
及貯藏ノ場所、飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ
場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

輸出菓子糖果原料砂糖戻稅法

第二條 前條ニ依リ下付金ヲ受ケタル菓子又ハ糖果ニ對シテハ明治四十三年
法律第五十四號關稅定率法第七條第十七號ヲ適用セス

第六十三條ノ二 自己又ハ其ノ家族ノ用ニノミ供スル第二種ノ物品又ハ飴ヲ
製造スル者ニハ當該物品ニ付本法中物品稅ニ關スル規定ヲ適用セズ

遊興飲食税法案

改正法

遊興飲食税法

- 第一條 料理店、貸席、旅館其ノ他命令ヲ以テ定ムル類似ノ場所ニ於ケル遊興及飲食ニハ本法ニ依リ遊興飲食税ヲ課ス
- 第二條 遊興飲食税ノ税率ハ遊興飲食ノ料金ノ百分ノ十五トス但シ藝妓ノ花代ニ付テハ料金ノ百分ノ三十トス
- 前項ノ遊興飲食ノ料金ハ前條ニ規定スル場所ノ經營者ガ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興又ハ飲食ニ付領收スベキ金額ヲ謂フ
- 遊興飲食ノ料金ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 遊興飲食ノ料金ガ一人一回三圓ニ滿タザル場合ニハ遊興飲食税ヲ課セズ但シ左ニ掲グル料金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 藝妓ノ花代及藝妓ノ花代ヲ伴フ遊興飲食ノ料金
- 二 藝妓ノ花代ニ類スル料金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ
- 三 命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於ケル遊興飲食ノ料金
- 前項ノ一人一回ノ料金ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 遊興飲食税ハ第一條ニ規定スル場所ノ經營者ヨリ之ヲ徵收ス

現行法

支那事變特別税法中遊興飲食税ニ關スル規定

- 第一條 當分ノ内本法ニ依リ・・・遊興飲食税ヲ課ス
- 第五十二條ノ二 遊興飲食税ハ料理店、貸席、旅館其ノ他命令ヲ以テ定ムル類似ノ場所ニ於ケル遊興及飲食ニ之ヲ課ス
- 第五十二條ノ三 遊興飲食税ノ税率ハ遊興飲食ノ料金ノ百分ノ十トス但シ藝妓ノ花代ニ付テハ料金ノ百分ノ二十トス
- 前項ノ遊興飲食ノ料金(以下料金ト稱ス)ハ前條ニ規定スル場所ノ經營者ガ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興又ハ飲食ニ付領收スベキ金額ヲ謂フ
- 料金ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五十二條ノ四 料金ガ一人一回五圓ニ滿タザル場合ニハ遊興飲食税ヲ課セズ但シ藝妓ノ花代其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 前項ノ一人一回ノ料金ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五十二條ノ五 遊興飲食税ハ第五十二條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條 第一條ニ規定スル場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎月分ノ

遊興飲食料金を記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ提出スベシ但シ經營

ヲ廢止シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府

ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス

第六條 遊興飲食税ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ經營ヲ廢止シタ

ル場合ニ於テハ直ニ之ヲ納付スベシ

第七條 第一條ニ規定スル場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎月分ノ

遊興飲食料金中其ノ月ニ於テ領收セザルモノニ對スル税金ヲ其ノ料金を領

收シタル月ノ翌月末日迄ニ納付スルコトヲ得但シ其ノ經營ヲ廢止シタル場

合ニ於テ未ダ納付セザル税金アルトキハ直ニ之ヲ納付スベシ

前項ノ規定ニ依リ未ダ税金ヲ納付セザル料金をシテ領收スルコト能ハザル

ニ至リタルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ遊興飲食税ヲ免除ス

第八條 第一條ニ規定スル場所ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第九條 第一條ニ規定スル場所ノ經營者及經營者ト經營上取引關係アル者ハ

命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

前項ニ規定スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ

政府ニ申告スベシ

第十條 收税官吏ハ前條第一項ニ規定スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務

ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ遊興飲食税ヲ逋脱シ又ハ逋脱セント

シタル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル税金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ

處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十

圓トス

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第五條第一項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

二 政府ニ申告セズシテ第一條ニ規定スル場所ヲ經營シタル者

前項第二號ニ規定スル者ニ付テハ直ニ其ノ遊興飲食税ヲ徴收ス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第九條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿

シタル者

二 第九條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第十條ノ規定ニ依ル收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳

述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第十四條 第十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三

十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及

第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第十五條 第一條ニ規定スル場所ノ經營者又ハ經營者ト經營上取引關係アル

第五十二條ノ六 第五十二條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所

ニ依リ毎月分ノ料金を記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ提出スベシ

但シ經營ヲ廢止シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府

ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス

第五十二條ノ七 遊興飲食税ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ經營ヲ

廢止シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ納付スベシ

第五十二條ノ八 第五十二條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所

ニ依リ毎月分ノ料金中其ノ月ニ於テ領收セザルモノニ對スル税金ヲ其ノ料

金を領收シタル月ノ翌月末日迄ニ納付スルコトヲ得但シ其ノ經營ヲ廢止シ

タル場合ニ於テ未ダ納付セザル税金アルトキハ直ニ之ヲ納付スベシ

前項ノ規定ニ依リ未ダ税金ヲ納付セザル料金をシテ領收スルコト能ハザル

ニ至リタルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ遊興飲食税ヲ免除ス

第五十二條ノ九 第五十二條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營セントスル者ハ命令

ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ

亦同ジ

第五十二條ノ十 第五十二條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者及經營者ト經營上

取引關係アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記

載スベシ

前項ニ規定スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ

政府ニ申告スベシ

第五十四條 收税官吏ハ遊興飲食税ニ付第五十二條ノ十第一項ニ規定スル者

ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第五十六條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ・・・遊興飲食税ヲ逋脱シ又ハ逋

脱セントシタル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル税金ノ五倍ニ相當ス

ル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ

之ヲ二十圓トス

第五十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

二 第五十二條ノ六ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

四 政府ニ申告セズシテ第五十二條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營シタル者

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第五十二條ノ十第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ

又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第五十二條ノ十第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第五十四條・・・第六項ノ規定ニ依ル收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲

サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ

タル者

第五十九條 第五十六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項

但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第

六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第六十條 第五十二條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者又ハ經營者ト經營上取引

者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ
本法ヲ犯シタルトキハ其ノ經營者又ハ經營者ト經營上取引關係アル者ヲ處
罰ス

第十六條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ遊興飲食稅ノ課稅標準
タル料金ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十七條 政府ハ第一條ニ規定スル場所ノ經營者ノ組織スル團體ニ對シ徵稅
上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ
得

前項ノ場合ニ於テハ前項ノ團體ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付
スルコトヲ得

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變特別稅法第五十二條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營スル者ニシテ同法ニ
依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモ
ノト看做ス

支那事變特別稅法第六十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ハ之ヲ第
十七條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ト看做ス

取引所稅法

改正法

第一條 取引所ニハ賣買手數料收入金額百分ノ十二ノ割合ニ依リ取引所特別
稅ヲ課ス

第三條 取引所特別稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業ノトキハ
直ニ之ヲ納付スヘシ

第四條 會員組織ノ取引所ニハ取引所特別稅ヲ課セス

第五條 取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シ得ル
モノニハ其ノ賣買各約定金高ニ對シ左ノ稅率ニ依リ取引稅ヲ課ス

第一種 地方債證券又ハ社債券ノ賣買取引

甲 七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ

萬分ノ〇・六

乙 其ノ他ノモノ

萬分ノ一

第二種 有價證券ノ賣買取引

關係アル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業
務ニ關シ本法中遊興飲食稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ經營者又
ハ經營者ト經營上取引關係アル者ヲ處罰ス

第六十一條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ...本法ニ依リ課
スル...遊興飲食稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ遊興飲食稅ノ課稅標準タル料金
ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第六十二條ノ二 政府ハ當分ノ内第五十二條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者ノ
組織スル團體ニ對シ遊興飲食稅ニ付徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事
務ノ補助ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ前項ノ團體ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付
スルコトヲ得

現行法

第一條 取引所ニハ賣買手數料收入金額百分ノ十五ノ割合ニ依リ取引所營業
稅ヲ課ス

臨時租稅增徴法

第十八條 取引所稅ニ付テハ左ノ各號ニ定ムル稅額ヲ增徴ス

一 取引所營業稅ニ付テハ取引所稅法第一條ニ規定スル稅率百分ノ十五ヲ
百分ノ十六・五トシタル場合ノ差増額ニ相當スル稅額

二 (省略)

第三條 取引所營業稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業ノトキハ
直ニ之ヲ納付スヘシ

第四條 會員組織ノ取引所ニハ取引所營業稅ヲ課セス

第五條 取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シ得ル
モノニハ其ノ賣買各約定金高ニ對シ左ノ稅率ニ依リ取引稅ヲ課ス

第一種 地方債證券又ハ社債券ノ賣買取引

甲 七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ

萬分ノ〇・六

乙 其ノ他ノモノ

萬分ノ一

第二種 有價證券ノ賣買取引

甲 七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ

萬分ノ五

乙 其ノ他ノモノ

萬分ノ七

第三種 商品ノ賣買取引

甲 銘柄又ハ等級別ニ相對賣買ノ方法ニ依リテ行ヒ履行期ニ於テノミ差
金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シ得ル取引ニ屬スルモノ

萬分ノ一・二五

乙 其ノ他ノモノ

萬分ノ二・五

賣買ヲ解約スルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セス

甲 七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ

萬分ノ一・五

乙 其ノ他ノモノ

萬分ノ二・五

第三種 商品ノ賣買取引

甲 銘柄又ハ等級別ニ相對賣買ノ方法ニ依リテ行ヒ履行期ニ於テノミ差
金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シ得ル取引ニ屬スルモノ

萬分ノ一・二五

乙 其ノ他ノモノ

萬分ノ二・五

賣買ヲ解約スルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セス

臨時租稅增徴法

第十八條 取引所稅ニ付テハ左ノ各號ニ定ムル稅額ヲ增徴ス

一 (省略)

二 第二種有價證券ノ賣買取引ニ對スル取引稅ニ付テハ取引所稅法第五條
ニ規定スル稅率萬分ノ一・五ヲ萬分ノ二・七、萬分ノ二・五ヲ萬分ノ四・五
トシタル場合ノ差増額ニ相當スル稅額

支那事變特別稅法

第十一條 取引所稅中第二種有價證券ノ賣買取引ニ對スル取引稅ニ付テハ臨
時租稅增徴法第十八條第二號ノ規定ニ拘ラズ取引所稅法第五條ニ規定スル
稅率萬分ノ一・五ヲ萬分ノ四、萬分ノ二・五ヲ萬分ノ六トシタル場合ノ差増
額ニ相當スル稅額ヲ增徴ス

第二十二條 北海道府縣及市町村ハ取引所營業稅ニ對シ本稅百分ノ十以内ノ

スルノ外取引所ノ業務ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ爲シタル賣買取引ニ基ク賣買手數料收入金額ニ關シテハ仍從前
ノ例ニ依ル

附加稅ヲ課スルノ外取引所ノ業務ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ
得ス

臨時租稅增徴法

第二十條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ增徴スル稅額
(第七條及第二十二條ノ規定ニ依リ增額ト爲ル部分ヲ含マズ)又ハ本法ニ依
リ課スル特別鑛產稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

通 行 税 法

改 正 法

第一條 汽車、電車、乗合自動車及汽船ノ乗客ニハ本法ニ依リ通行税ヲ課ス

第二條 通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
乗車船區間四十秆以下ナルトキ

一等	十錢
二等	五錢
三等	二錢
一等	二十錢
二等	十錢
三等	二錢
一等	三十錢
二等	十五錢
三等	五錢
一等	六十錢
二等	三十錢

現 行 法

支那事變特別税法

第一條 當分ノ内本法ニ依リ、通行税、之ヲ課ス

第十九條 通行税ハ汽車、電車、乗合自動車及汽船ノ乗客ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

五十秆未満	三十錢
一等	六錢
二等	三錢
五十秆以上	十錢
一等	五錢
二等	二錢
一等	三十錢
二等	十五錢
百秆以上	二二五

三等

十錢

乗車船區間三百粒以下ナルトキ

一等

一圓二十錢

二等

六十錢

三等

二十錢

乗車船區間五百粒以下ナルトキ

一等

一圓八十錢

二等

九十錢

三等

三十錢

乗車船區間八百粒以下ナルトキ

一等

二圓四十錢

二等

一圓二十錢

三等

四十錢

乗車船區間八百粒ヲ超ユルトキ

一等

三圓

二等

一圓五十錢

三等

五十錢

回数乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

回数二十回以下ナルトキ

前項税額ノ五倍

回数五十回以下ナルトキ

前項税額ノ十倍

回数五十回ヲ超ユルトキ

前項税額ノ二十倍

定期乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

契約期間一月以内ナルトキ

第一項税額ノ五倍

契約期間三月以内ナルトキ

第一項税額ノ十倍

契約期間六月以内ナルトキ

第一項税額ノ二十倍

契約期間六月ヲ超ユルトキ

第一項税額ノ三十倍

團體乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

人員五十人以下ナルトキ

第一項税額ノ五倍

人員百人以下ナルトキ

第一項税額ノ十倍

人員二百人以下ナルトキ

第一項税額ノ二十倍

人員二百人ヲ超ユルトキ

第一項税額ノ三十倍

貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一等及二等

貸切運賃ノ百分ノ十

三等

貸切運賃ノ百分ノ五

前項ノ規定ニ依ル税額ハ第一項税額ニ乗客定員數ヲ乗ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項乃至第三項ニ規定スル通行税ハ十二歳未満ノ乗客ニ付テハ其ノ半額トス

三等

五錢

百五十粒以上

一等

六十錢

二等

三十錢

三等

十錢

三百粒以上

一等

一圓二十錢

二等

六十錢

三等

二十錢

五百粒以上

一等

一圓八十錢

二等

九十錢

三等

三十錢

八百粒以上

一等

二圓四十錢

二等

一圓二十錢

三等

四十錢

回数乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

回数二十回以下ナルトキ

前項税額ノ五倍

回数五十回以下ナルトキ

前項税額ノ十倍

回数五十回ヲ超ユルトキ

前項税額ノ二十倍

定期乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

契約期間一月内ナルトキ

第一項税額ノ五倍

契約期間三月内ナルトキ

第一項税額ノ十倍

契約期間六月内ナルトキ

第一項税額ノ二十倍

契約期間六月ヲ超ユルトキ

第一項税額ノ三十倍

團體乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

人員百人以下ナルトキ

第一項税額ノ五倍

人員二百人以下ナルトキ

第一項税額ノ十倍

人員二百人ヲ超ユルトキ

第一項税額ノ二十倍

貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一等及二等

貸切運賃ノ百分ノ十

三等

貸切運賃ノ百分ノ五

前項ノ規定ニ依ル税額ハ第一項税額ニ乗客定員數ヲ乗ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項乃至第三項ニ規定スル通行税ハ十二歳未満ノ乗客ニ付テハ其ノ半額トス

前項ノ税額ニ十錢ニ滿タザル端數アル場合ニ於テハ其ノ端數ガ五錢以上ナルトキハ之ヲ五錢トシ五錢ニ滿タザルトキハ之ヲ切捨ツ但シ其ノ全額五錢ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 急行車船ニ乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ルノ外急行料金ノ百分ノ十ノ税率ニ依リ通行税ヲ課ス

前條第八項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ算出シタル税額ニ付之ヲ準用ス

第四條 乗車船區間四十軒以下ノ三等乗客ニハ通行税ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル通行税ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 陸海軍ノ團體トシテノ乗車船ニシテ命令ノ定ムルモノニハ通行税ヲ課セズ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第二條第一項及第四條ノ乗車船區間ノ料程ノ計算ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 往復乗車船又ハ廻遊乗車船ノ契約ヲ爲シタルトキ

二 運賃ガ均一制又ハ區間制ニ依リ定メラレタルトキ

第七條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第二條第一項、第五項及第四條ノ等級ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム乗客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第二條第六項ノ乗客定員數ニ付亦同ジ

第八條 通行税ハ汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者(以下運輸業者ト稱ス)運賃又ハ急行料金領收ノ際之ヲ徴收シ翌月末日迄ニ政府ニ納ムベシ

第九條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者及運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第十條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第十一條 第八條ノ規定ニ依リ徴收スベキ通行税ヲ徴收セザルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徴收ノ例ニ依リ之ヲ其ノ徴收義務者ヨリ徴收ス

第十二條 收税官吏ハ運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第十條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 前條ノ規定ニ依ル收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ガ若ハ忌避シタル者

第二十條 左ノ場合ニ於テハ通行税ヲ課セズ

一 三等乗客ニシテ其ノ乗車船區間五十軒未滿ナルトキ

二 陸海軍ノ團體トシテノ乗車船ニシテ命令ノ定ムルモノナルトキ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十九條第一項及前條第一號ノ乗車船區間ノ料程ノ計算ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 往復乗車船又ハ廻遊乗車船ノ契約ヲ爲シタルトキ

二 運賃ガ均一制又ハ區間制ニ依リ定メラレタルトキ

第二十二條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第十九條第一項、第五項及第二十條第一號ノ等級ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム乗客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十九條第六項ノ乗客定員數ニ付亦同ジ

第二十三條 通行税ハ汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者(以下運輸業者ト稱ス)運賃領收ノ際之ヲ徴收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ

特別ノ事情アル運輸業者ニ付テハ前項ノ納期限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者及運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第二十五條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第五十三條 、、、、第二十三條、、、、ノ規定ニ依リ徴收スベキ税金ヲ徴收セザルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徴收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徴收義務者ヨリ徴收ス

第五十四條第二項

收税官吏ハ通行税ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二十五條第一項、、、、ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第二十五條第二項、、、、ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第五十四條第一項、第二項、、、、ノ規定ニ依ル收税官吏ノ質問ニ

對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨
ゲ若ハ忌避シタル者

第六十一條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ増徴スル
稅額(第七條ノ規定ニ依リ増額ト爲ル部分ヲ含マズ)又ハ本法ニ依リ課スル
、、通行稅、、ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル市
町村ニ限リ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第六條ノ規定ニ依
リ課スル所得稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

(參考)

第七十條第一項

本法施行前ヨリ引續キ汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營
ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者本法施行後一月内ニ其ノ
旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノ
ト看做ス

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ニシテ支那事變特別稅
法第二十四條又ハ第二十五條第二項ノ規定ニ依リ申告シタルモノハ本法施行
ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス

入場稅法案

改正法

入場稅法

第一條 本法ニ依リ入場稅及特別入場稅ヲ課ス

第二條 入場稅ハ左ニ掲グル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ
設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

第一種

- 一 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物(相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニ
シテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム)ヲ催ス場所
- 二 競馬場
- 三 前二號ニ掲グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀
覽又ハ遊戯ニ供スル場所ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

第二種

- 一 舞踏場、麻雀場、撞球場
- 二 ゴルフ場、スケート場

第三條 入場稅ノ稅率左ノ如シ

第一種ノ場所

入場料ガ一人一回一圓未滿ナルトキ

入場料ノ百分ノ十

現行法

支那事變特別稅法中入場稅及特別入場稅ニ關スル規定

第一條 當分ノ内本法ニ依リ・・・入場稅、特別入場稅・・・ヲ課ス

第二十六條 入場稅ハ左ニ掲グル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場
所ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

第一種

- 一 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物(相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニ
シテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム)ヲ催ス場所
- 二 競馬場
- 三 前二號ニ掲グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀
覽又ハ遊戯ニ供スル場所ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

第二種

- 一 舞踏場、麻雀場、撞球場
- 二 ゴルフ場、スケート場

第二十七條 入場稅ハ入場料ノ百分ノ十トス

本法ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第
二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

入場料が一人一回一圓以上三圓未満ナルトキ

入場料ノ百分ノ二十

入場料が一人一回三圓以上ナルトキ

入場料ノ百分ノ三十

回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルトキ

入場料ノ百分ノ二十

第二種ノ場所 入場料ノ百分ノ二十

本法ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 第一種ノ場所ノ入場料が一人一回十九錢ニ滿タザル場合ニハ入場税ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五條 第一種ノ催物(第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ)若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場税ヲ免除ス

第六條 入場税ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徴收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ常

時開設ニ非ザルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第七條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第八條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第九條 特別入場税ハ運動競技ニシテ學生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ業トセザル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徴スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス

第十條 特別入場税ノ税率ハ特別入場料ノ百分ノ十トス

本法ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ前條ノ競技場ニ入場スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

第三條第三項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第十一條 特別入場料が一人一回十九錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場税ヲ課セズ

第四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十二條 特別入場税ハ運動競技ノ主催者特別入場料領收ノ際之ヲ徴收シ競技終了後直ニ政府ニ納ムベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ翌月十日

第二十八條 第一種ノ場所ノ入場料が一人一回二十三錢ニ滿タザル場合ニハ入場税ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十九條 第一種ノ催物(第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ)若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場税ヲ免除ス

第三十條 入場税ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徴收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ

常時開設ニ非ザルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第三十一條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第三十二條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第三十三條 特別入場税ハ運動競技ニシテ學生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ業トセザル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徴スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス

第三十四條 特別入場税ハ特別入場料ノ百分ノ十トス

本法ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ前條ノ競技場ニ入場スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

第二十七條第三項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第三十五條 特別入場料が一人一回二十三錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場税ヲ課セズ

第二十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 特別入場税ハ運動競技ノ主催者特別入場料領收ノ際之ヲ徴收シ競技終了後直ニ政府ニ納ムベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ翌月十日

迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十三條 第五條、第七條及第八條ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第十四條 第六條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ徴收スベキ税金ヲ徴收セザルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徴收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徴收義務者ヨリ徴收ス

第十五條 收稅官吏ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第十六條 政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第八條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第十五條第一項ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第十八條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第一種ノ場所ノ入場者

又ハ第二種ノ場所ノ設備利用者ニ對シ入場税ノ課税標準タル入場料ヲ標準

トシテ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變特別稅法第二十六條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營スル者又ハ同第二種ノ場所ヲ經營スル者ニシテ同法ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス
前項ノ規定ハ支那事變特別稅法第三十三條ニ規定スル運動競技ヲ開催スル者ニシテ同法ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノニ付之ヲ準用ス

日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第三十七條 第二十九條、第三十一條及第三十二條ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第五十三條 第三十條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ徴收スベキ税金ヲ徴收セザルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徴收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徴收義務者ヨリ徴收ス

第五十四條 收稅官吏ハ入場税ニ付第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第五十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第三十二條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第三十二條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第五十四條ノ第三項ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第六十一條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ課

スルノ入場税、特別入場税ニ付附加税ヲ課スルコトヲ得ズ

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第一種ノ場所ノ入場者又ハ第二種ノ場所ノ設備利用者ニ對シ入場税ノ課税標準タル入場料ヲ標準トシテ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

印紙税法

改正法

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一冊一年
以內ノ附込ニ對シ左ノ印紙税ヲ納ムヘシ

一 不動産、鐵道財團、軌道財團、自 動車交通事業財團又ハ船舶ノ所有 權移轉ニ關スル證書	記載金高五十圓以下ノモノ 同百圓以下ノモノ	二錢 三錢
二 消費貸借ニ關スル證書	同千圓以下ノモノ	十錢
三 請負ニ關スル證書	同一萬圓以下ノモノ	二十錢
四 運送ニ關スル證書	同一萬圓ヲ超ユルモノ	五十錢
五 備船契約書	記載金高ナキモノ	一圓
	記載金高三圓以下ノモノ	三錢
	同五圓以下ノモノ	十錢
	同十圓以下ノモノ	三十錢
	同二十圓以下ノモノ	六十錢
	同三十圓以下ノモノ	九十錢
	同五十圓以下ノモノ	一圓五十錢
	同百圓以下ノモノ	三圓
	同百圓ヲ超ユルモノ	三圓
六 物品切手	百圓又ハ其ノ端數毎ニ 記載金高ナキモノ	三錢

現行法

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一冊一年
以內ノ附込ニ對シ左ノ印紙税ヲ納ムヘシ

一 不動産、鐵道財團、軌道財團、自 動車交通事業財團又ハ船舶ノ所有 權移轉ニ關スル證書	記載金高五十圓以下ノモノ 同百圓以下ノモノ	二錢 三錢
二 消費貸借ニ關スル證書	同千圓以下ノモノ	十錢
三 請負ニ關スル證書	同一萬圓以下ノモノ	二十錢
四 運送ニ關スル證書	同一萬圓ヲ超ユルモノ	五十錢
五 備船契約書	記載金高ナキモノ	一圓
六 委任狀		三錢
七 約束手形		二錢
八 爲替手形		
九 銀行預金證書		
十 產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發 スル貯金證書		
十一 產業組合聯合會、漁業組合、漁 業組合聯合會、商工組合中央金庫、 工業組合、工業組合聯合會、工業小 組合、商業組合、商業組合聯合會		

七 委任狀	二錢
八 約束手形	
九 爲替手形	
十 銀行預金證書	
十一 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書	
十二 産業組合聯合會、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央會、工業組合、工業組合聯合會、工業小組合、商業組合、商業組合聯合會、貿易組合又ハ貿易組合聯合會ノ發スル出資證券	
十三 船荷證券	
十四 運送貨物引換證	
十五 倉庫證券	
十六 保險證券	
十七 債券	三錢
十八 債券	
十九 相互保險會社ノ發スル基金證券	
二十 株式申込證	
二十一 社債申込證	
二十二 地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書	
二十三 使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書	

貿易組合又ハ貿易組合聯合會ノ發スル出資證券	
十二 船荷證券	
十三 運送貨物引換證	
十四 倉庫證券	
十五 保險證券	
十六 債券	
十七 債券	三錢
十八 相互保險會社ノ發スル基金證券	
十九 株式申込證	
二十 社債申込證	
二十一 地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書	
二十二 使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書	
二十三 信託行爲ニ關スル證書	
二十四 無盡ニ關スル證書	
二十五 定款又ハ組合契約書	
二十六 權利ノ變更ニ關スル證書	
二十七 追認又ハ承認ニ關スル證書	
二十八 物品切手	
二十九 受取書	
三十 質權、抵當權ニ關スル證書	
三十一 前各號以外ノ證書	
三十二 預金通帳	

二十四 信託行爲ニ關スル證書	
二十五 無盡ニ關スル證書	
二十六 定款又ハ組合契約書	
二十七 權利ノ變更ニ關スル證書	
二十八 追認又ハ承認ニ關スル證書	
二十九 受取書	
三十 質權、抵當權ニ關スル證書	
三十一 前各號以外ノ證書	
三十二 預金通帳	五錢
三十三 前號以外ノ通帳	五十錢
三十四 判取帳	

三十三 前號以外ノ通帳	五錢
三十四 判取帳	五十錢

證書ニ金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

支那事變特別税法

第十一條ノ二 印紙稅中物品切手ニ關スル印紙稅ハ印紙稅法第四條第一項第二十八號ノ規定ニ拘ラズ一通毎ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ納ムベシ

記載金高三圓以下ノモノ	三錢
同五圓以下ノモノ	十錢
同十圓以下ノモノ	三十錢
同二十圓以下ノモノ	六十錢
同三十圓以下ノモノ	九十錢
同五十圓以下ノモノ	一圓五十錢

同百圓以下ノモノ 三圓
同百圓ヲ超ユルモノ 三圓
百圓又ハ其ノ端數毎ニ 三圓
記載金高ナキモノ 三錢

第十四條 第十一條及前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

骨牌税法

改正法

第四條 骨牌ニハ一組毎ニ麻雀ニ在リテハ五圓、其ノ他ニ在リテハ七十錢ノ稅ヲ課ス

第六條 骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間内又ハ保税地域ヨリ引取前ニ於テ一組毎ニ包裹ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十條 相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ保税地域ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 收稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル検査又ハ質問ヲ爲スコトヲ得

第十五條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ讓渡シタルトキハ脱稅高二十倍ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ヲ沒收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

第十六條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

現行法

第四條 骨牌ニハ一組毎ニ麻雀ニ在リテハ三圓、其ノ他ニ在リテハ五十錢ノ稅ヲ課ス

第六條 骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間内又ハ税關若ハ保税倉庫ヨリ引取前ニ於テ一組毎ニ包裹ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十條 相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ税關又ハ保税倉庫ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 收稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第十五條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ讓渡シタルトキハ脱稅高二十倍ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ヲ沒收ス但シ脱稅高二十倍ノ金額十圓ニ達セサルトキハ十圓ノ罰金ニ處ス

第十六條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十七條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ヲ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條 第十一條ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條 第十四條乃至第十六條及第二十一條ノ二ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス
第二十一條ノ三 本法ニ於テ保稅地域トハ關稅法ニ定ムル保稅地域ヲ謂フ

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ニハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條ノ改正規定ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ又ハ不足印紙ヲ増貼スベシ

狩 獵 法

改 正 法

第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

- 一等 綜合所得稅ヲ納ムル者及其ノ家族 七十圓
- 二等 一等以外ノ者ニシテ分類所得稅年額二十圓以上ヲ納ムルモノ及其ノ家族 四十圓
- 三等 一等及二等以外ノ者 十八圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ日ヨリ昭和十六年四月十五日迄ニ狩獵ノ免許ヲ受クル者ニ付テハ昭和十四年分所得稅二百圓以上ヲ納ムル者及其ノ家族ヲ以テ第八條ニ規定スル一等ニ該當スル者、昭和十四年分所得稅ヲ納ムル者及其ノ家族ヲ以テ同條ニ規定スル二等ニ該當スル者、此等ノ者以外ノ者ヲ以テ同條ニ規定スル三等ニ該當スル者ト看做シ本法ヲ適用ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十七條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ヲ詐リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ(不論罪)及輕減、(再犯加重、數罪俱發)ノ例ヲ用キス但シ(刑法第七十五條第一項)ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

現 行 法

第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

- 一等 所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 五十圓
- 二等 所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 三十圓
- 三等 一等及二等以外ノ者 十五圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

明治四十四年法律第四十五號

(砂糖消費稅、織物消費稅等ノ徵收ニ關スル法律)

改正法

第一條 削除

第二條 關稅法第三十九條ノ規定ニ依ル運送ハ酒稅法、砂糖消費稅法、織物消費稅法、揮發油稅法、骨牌稅法又ハ物品稅法ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條 酒稅法、砂糖消費稅法、織物消費稅法、揮發油稅法、骨牌稅法、物品稅法、支那事變特別稅法又ハ北支事件特別稅法ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外酒類、砂糖、糖蜜、糖水、織物、揮發油、骨牌又ハ物品稅法第一條ニ掲クル物品ニ付關稅ヲ徵收スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅納付義務者ヨリ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ骨牌稅法ニ依リ骨牌ヲ沒收スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

現行法

第一條 織物消費稅法又ハ骨牌稅法ニ於テ稅關、保稅倉庫トアルハ關稅法ニ於テ稱スル保稅地域ヲ謂フ

第二條 關稅法第三十九條ノ規定ニ依ル運送ハ砂糖消費稅法、織物消費稅法、揮發油稅法、骨牌稅法、支那事變特別稅法又ハ北支事件特別稅法ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條 砂糖消費稅法、織物消費稅法、揮發油稅法、骨牌稅法、支那事變特別稅法又ハ北支事件特別稅法ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外砂糖、糖蜜、糖水、織物、揮發油、骨牌、支那事變特別稅法第三十八條ニ掲クル物品又ハ北支事件特別稅法第二十條ニ掲クル物品ニ付關稅ヲ徵收スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅納付義務者ヨリ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ骨牌稅法ニ依リ骨牌ヲ沒收スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

大正九年法律第五十一號

(内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル法律)

改正法

左ニ掲クル物品ニシテ内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スルモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ内國稅ヲ免除若ハ拂戻シ又ハ交付金ヲ交付スルコトヲ得但シ織物及織物製品ノ物品稅ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 酒類、清涼飲料、砂糖、糖蜜、糖水、織物、織物製品、揮發油、骨牌、燐寸、飴、葡萄糖、麥芽糖、物品稅法第一條ニ掲クル第二種ノ物品

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

現行法

左ニ掲クル物品ニシテ内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スルモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ内國稅ヲ免除若ハ拂戻シ又ハ交付金ヲ交付スルコトヲ得

- 酒類、麥酒、酒精、酒精含有飲料、清涼飲料、砂糖、糖蜜、糖水、織物、織物製品、揮發油、骨牌、燐寸、飴、葡萄糖、麥芽糖、支那事變特別稅法第三十八條ニ掲クル第二種ノ物品

臨時租稅措置法

改正法

第一條 當分ノ内本法ニ依リ所得稅、法人稅、田畑地租、營業稅、砂糖消費稅、織物消費稅、登錄稅及臨時利得稅ヲ輕減又ハ免除ス

第一條ノ二 法人ノ各事業年度ノ所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過部分ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ命令ヲ以テ定ムル方法ニ依リ運用スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ運用金額ニ百分ノ三・六ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル法人稅ヲ輕減ス

前項ノ各事業年度ノ所得及所得中留保シタル金額ハ其ノ事業年度ノ所得及資本ニ課セラルベキ法人稅額(前項ノ規定ニ依リ輕減スル稅額ヲ控除セザルモノニ依ル)及法人稅法第十四條ノ規定ニ依リ控除スベキ臨時利得稅額ヲ其ノ事業年度ノ所得及其ノ所得中留保シタル金額ノ双方ヨリ控除シタル殘額ニ依ル

第一條ノ三 所得稅法第五條、法人稅法第十二條及營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル物產ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ増設シタル設備ニ依ル物產ノ製造、採掘又ハ採取ノ業務ヨリ生ズル所得及

現行法

第一條 當分ノ内本法ニ依リ所得稅、田畑地租、營業收益稅、鑛產稅、特別鑛產稅、織物消費稅、登錄稅及臨時利得稅ヲ輕減又ハ免除シ砂金以外ノ砂鑛ニ付特別砂鑛區稅ヲ課ス

第一條ノ二 法人ノ各事業年度ノ普通所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ四ニ相當スル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過部分ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ命令ヲ以テ定ムル方法ニ依リ運用スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ運用金額ニ百分ノ二・四五ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ三 所得稅法第十九條及營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ指定シタル物產ノ製造業ニ付其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ増設シタル設備ニ依ル物產ノ製造業務ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

純益ニ付所得税、法人税及營業稅ヲ免除ス

命令ヲ以テ指定スル製造方法ニ依ル物産ノ製造ヲ開始シタル者又ハ其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造開始又ハ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ製造方法ニ依ル物産ノ製造業務又ハ其ノ増設シタル設備ニ依ル物産ノ製造業務ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得税、法人税及營業稅ヲ免除ス

第一條ノ四 左ニ掲グル事項ニ付テハ所得税法ニ依ル所得、法人税法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

- 一 命令ヲ以テ指定スル國庫補助金ノ收入
- 二 命令ヲ以テ指定スル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出
- 三 命令ヲ以テ指定スル事業ノ用ニ供スル建物(工場用以外ノ建物ヲ除ク)、機械其ノ他ノ設備及船舶ノ價額ノ償却

第一條ノ五 法人ノ各事業年度ノ所得中ニ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ四ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル法人税ヲ輕減ス

個人ノ甲種ノ事業所得中ニ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ六 命令ヲ以テ指定スル礦物又ハ其ノ礦產物ヲ產出スル礦業權者ニ

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該礦業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル分類所得稅又ハ法人税ヲ輕減ス

第一條ノ七 事業ノ經營ヲ主タル目的トスル同族會社ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ對シ法人税法第十七條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ同條第一項

第一號ニ規定スル割合十分ノ三ハ之ヲ十分ノ六トシ同項第二號ニ規定スル割合十分ノ一ハ之ヲ十分ノ四トス

第一條ノ八 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル生命保險會社ノ甲種ノ配當利子所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十四年十二月三十一日以前ヨリ引續キ所有スル株式ニ對スル利益又ハ利息ノ配當ニ限り所得稅法第二十一條ニ規定スル稅率百分ノ十ヲ百分ノ六トシタル場合ノ差減額ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス

第六條 田畑地租ノ輕減ヲ申請シタル者ノ田畑自作ノ所得ハ政府ノ調査ニ依リ其ノ年乙種ノ事業所得ノ金額ヲ決定スル時期ニ於テ政府之ヲ確定ス

第七條 所得稅法第十二條第一項第四號ノ規定及同條第五項中相續シタル資産ノ所得計算ニ關スル規定ハ本法ニ依リ田畑自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條 法人又ハ個人ノ營業(個人ニ付テハ營業稅法第二條ニ掲グル營業ヲ謂フ以下同ジ)ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業稅ヲ輕減ス

第九條 營業稅ノ輕減額ハ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

命令ヲ以テ指定スル製造方法ニ依ル物産ノ製造ヲ開始シタル者又ハ其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造開始又ハ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ製造方法ニ依ル物産ノ製造業務又ハ其ノ増設シタル設備ニ依ル物産ノ製造業務ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得税及營業收益稅ヲ免除ス

第一條ノ四 左ニ掲グル事項ニ付テハ所得税法ニ依ル所得、營業收益稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

- 一 命令ヲ以テ指定スル國庫補助金ノ收入
- 二 命令ヲ以テ指定スル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出
- 三 命令ヲ以テ指定スル事業ノ用ニ供スル建物(工場用以外ノ建物ヲ除ク)、機械其ノ他ノ設備及船舶ノ價額ノ償却

第一條ノ五 法人ノ各事業年度ノ所得中ニ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ四ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル法人税ヲ輕減ス

個人ノ甲種ノ事業所得中ニ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ六 命令ヲ以テ指定スル礦物又ハ其ノ礦產物ヲ產出スル礦業權者ニ

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該礦業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル分類所得稅又ハ法人税ヲ輕減ス

第一條ノ七 事業ノ經營ヲ主タル目的トスル同族會社ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ對シ法人税法第十七條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ同條第一項

第一號ニ規定スル割合十分ノ三ハ之ヲ十分ノ六トシ同項第二號ニ規定スル割合十分ノ一ハ之ヲ十分ノ四トス

第六條 田畑地租ノ輕減ヲ申請シタル者ノ田畑自作ノ所得ハ政府ノ調査ニ依リ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ政府之ヲ確定ス

第七條 所得稅法第十四條第一項第六號ノ規定及同條第三項中相續シタル資産ノ所得計算ニ關スル規定ハ本法ニ依リ田畑自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條 法人又ハ個人ノ營業(個人ニ付テハ營業收益稅法第二條ニ掲グル營業ヲ謂フ以下同ジ)ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業收益稅ヲ輕減ス

第九條 營業收益稅ノ輕減額ハ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合が二割五分以上三割五分未満ナルトキ 營業稅額ノ二割

同三割五分以上五割未満ナルトキ 營業稅額ノ三割

同五割以上七割未満ナルトキ 營業稅額ノ四割

同七割以上ナルトキ 營業稅額ノ五割

第十一條 營業稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ

政府ニ申請スベシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ營業稅ヲ輕減セズ

一 法人ノ營業ノ純益ガ年六千圓以上ナルトキ又ハ資本金額ニ對シ年百分

ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキ

二 個人ノ營業ノ純益ガ六千圓以上ナルトキ

三 法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

第十三條 營業稅法第四條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ營業ノ純益ノ計算ニ

付、同法第十條ノ規定ハ本法ニ依ル個人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付之ヲ準用

ス

臨時利得稅法第六條及第七條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ資本金額ノ計算ニ

付之ヲ準用ス

第十四條乃至第二十條 削除

減少割合が二割五分以上三割五分未満ナルトキ 營業收益稅額ノ二割

同三割五分以上五割未満ナルトキ 營業收益稅額ノ三割

同五割以上七割未満ナルトキ 營業收益稅額ノ四割

同七割以上ナルトキ 營業收益稅額ノ五割

第十一條 營業收益稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ

旨ヲ政府ニ申請スベシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ營業收益稅ヲ輕減セズ

一 法人ノ營業ノ純益ガ年六千圓以上ナルトキ又ハ資本金額ニ對シ年百分

ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキ

二 個人ノ營業ノ純益ガ六千圓以上ナルトキ

三 法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

第十三條 營業收益稅法第四條第一項ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ營業ノ純益

ノ計算ニ付、同法第六條ノ規定ハ本法ニ依ル個人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付

之ヲ準用ス

所得稅法第六條乃至第八條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ資本金額ノ計算ニ付

之ヲ準用ス

第十四條 田畑自作ノ所得又ハ個人ノ營業ノ純益ニ付當初確定額ニ比シ減損

アル場合ニ於テハ政府ハ申請ニ依リ第二條乃至第四條又ハ第八條乃至第十

條及第十二條ノ規定ニ準ジ田畑地租又ハ營業收益稅ヲ輕減シ又ハ其ノ輕減

稅額ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ規定ハ田畑自作ノ所得ガ所得確定後相續又ハ贈與ニ因リ減損シタル

場合又ハ營業ノ純益ガ純益金額決定後營業繼續ニ因リ減損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ申請ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條 前條ノ場合ニ於テ營業ノ純益金額ガ當初決定額ニ比シ四分ノ一以

上ノ減損ト爲ルトキハ其ノ實際純益額ニ基キ計算シタル營業收益稅額ニ付

前條ノ規定ニ依ル輕減又ハ變更ヲ爲ス

第十六條 個人ノ營業收益稅ニ付純益金額決定後翌年純益金額決定前ニ於テ

營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際純益額ガ決定純益額ヲ超

過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ純益金額ノ決定ニ付脱漏アリタルモノト看

做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ

決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際純益額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必

要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第十七條 第十四條第一項ノ申請アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スル

ニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十八條 昭和十三年一月一日以後鑛區ノ合併、分割又ハ分合ニ依ラズシテ

設定セラレタル探掘權ニ基キ其ノ鑛區ヨリ産出シタル鑛物ニシテ命令ヲ以

テ指定スルモノニハ鑛產稅又ハ特別鑛產稅ヲ課セズ

第十九條 命令ヲ以テ指定スル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ毎年ノ産出數量ガ昭和

十二年中ニ於ケル産出數量ヲ超過シタル鑛業ノ鑛業權者ニハ其ノ超過部分

(鑛物及鑛產物)ノ産出數量ガ何レモ超過シタルトキハ其ノ超過割合ノ大ナ

ル一方ノ超過部分)ニ付鑛産税又ハ特別鑛産税ヲ免除ス

自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ産出シタル鑛産物ノ數量ハ前項ノ鑛産物ノ産出數量ニ之ヲ算入セズ但シ其ノ取得鑛物ノ數量ガ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ヲ超過スルトキハ其ノ超過部分ノ鑛物ヨリ産出スル鑛産物ノ數量ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十二年以後鑛業ノ全部又ハ一部ノ繼續アリタル場合ニ於テハ當該部分ヨリ昭和十二年中ニ産出シタル鑛物又ハ其ノ鑛産物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ昭和十二年中ノ鑛物又ハ其ノ鑛産物ノ産出數量ニ加算シ被繼續者ノ昭和十二年中ノ鑛物又ハ其ノ鑛産物ノ産出數量ヨリ除算シ第一項ノ超過部分ヲ計算ス

前項ノ繼續アリタル場合ニ於テハ被繼續者ガ當該部分ヨリ其ノ年ニ於テ産出シタル鑛物又ハ其ノ鑛産物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ其ノ年ニ於ケル鑛物又ハ鑛産物ノ産出數量ト看做ス

第二十条 砂金以外ノ砂鑛ノ採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ稅率ニ依リ毎年特別砂鑛區稅ヲ課ス

- 河床 砂鑛區域一町毎ニ 金三十錢
- 河床ニ非ザルモノ
- 砂鑛區域千坪毎ニ 金三十錢

前項ノ場合ニ於テ一町未滿又ハ千坪未滿ノ端數ハ之ヲ一町又ハ千坪トシテ

計算ス

特別砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス
北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ特別砂鑛區稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第二十一条 ステープルファイバー又ハ綿ヲ用ヒタル絲ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ之ヲ織物消費稅法第一條又ハ第一條ノ二ニ規定スル綿又ハ綿絲ト看做ス麻ヲ用ヒタル絲ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ之ヲ織物消費稅法第一條ニ規定スル麻ト看做ス

第二十二條 人造絹絲ヲ用ヒタル織物ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ織物消費稅法第一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ之ヲ綿織物ト看做ス

第二十三條 本法ニ依リ輕減又ハ免除セララルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス但シ第一條ノ二乃至第一條ノ四ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セララルル租稅ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 政府ノ承認ヲ受ケ命令ヲ以テ定ムル樽以外ノ容器ニ容レタル糖及白下糖ハ之ヲ砂糖消費稅法第三條第一種甲ノ砂糖ト看做ス但シ分蜜シタルモノ、黑糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ竝ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 人造絹絲ヲ用ヒタル織物ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ織物消費稅法第一條但書ノ織物ト看做ス

第二十三條 本法ニ依リ輕減又ハ免除セラレタル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス但シ第一條ノ二乃至

第一條ノ八ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セララルル租稅ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條ノ二 樺太ニ於テハ本法ノ施行ニ關シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人稅及法人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ所得稅及營業稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第一條ノ六ノ規定中分類所得稅ニ關スルモノハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用

ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ産出シタル鑛産物ニ對スル鑛産税及特別鑛産税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ昭和十五年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ産出シタル鑛物又ハ鑛産物ニ付改正前ノ第十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ昭和十二年中ニ於ケル鑛物又ハ鑛産物ノ産出數量ノ十二分ノ三ニ相當スル數量ヲ以テ同條ニ規定スル昭和十二年中ニ於ケル産出數量ト看做ス

昭和十四年分以前ノ田畑地租、昭和十四年分以前ノ個人ノ營業收益税及昭和十五年分以前ノ特別砂鑛區税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル



昭和十五年二月

税制改正ニ關スル法律案新舊對照
(其ノ二)

大藏省主稅局

目次

一 所得稅法人稅內外關涉法……………一頁

二 大正十三年法律第六號(外國船舶ノ所得稅及營業收益稅免除ニ關スル法律)中改正法律……………九

三 昭和十二年法律第九十四號(支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル法律)中改正法律……………一

四 アルコール製造事業等ニ對スル所得稅等ノ免除規定ノ改正ニ關スル法律……………一

(一) アルコール專賣法……………一三

(二) 北支那開發株式會社法……………一三

(三) 輕金屬製造事業法……………一四

(四) 工作機械製造事業法……………一五

(五) 航空機製造事業法……………一七

(六) 國際電氣通信株式會社法……………一七

(七) 自動車製造事業法……………一八

(八) 人造石油製造事業法……………一九

(九) 製鐵事業法……………二〇

(一〇) 大日本航空株式會社法……………二二

(一一) 帝國鑛業開發株式會社法……………二三

(一二) 帝國燃料興業株式會社法……………二四

(一三) 日本產金振興株式會社法……………二五

目次

一 所得稅法人稅内外地關涉法……………頁

二 大正十三年法律第六號(外國船舶ノ所得稅及營業收益稅免除ニ關スル法律)中改正法律……………九

三 昭和十二年法律第九十四號(支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル法律)中改正法律……………一

四 アルコール製造事業等ニ對スル所得稅等ノ免除規定ノ改正ニ關スル法律……………一

(一) アルコール專賣法……………一

(二) 北支那開發株式會社法……………一

(三) 輕金屬製造事業法……………一

稅制改正ニ關スル法律案新舊對照(其ノ二)正誤表

頁	行	正	誤
一	上段一二行目	法ヲ削除	所得稅法施行地
六	下段四行目一五行目	「製造業カ、 線ヲ施ス	製鐵事業ナルトキハ」ニ傍
一四	上段一〇行目	府縣、市町村	府縣及市町村
一六	上段一行目	期間内ニ	期間内
一六	下段一行目	ルヲ削除	ルノ指定スル
一七	上段一行目	ルトキハ	トキハ
二四	上段六行目	削除	所得ニ對スル
三二	上段二行目	商工組合中央金庫	商業組合中央金庫
三二	下段七行目	商工債券	商業債券
三五	下段四行目	營業收益稅及營業稅ヲ課セス	營業收益稅ヲ課セス

茶譜抄 卷之三 茶ノ類

頁
 一 大茶一 二 香自起 三 時茶
 六 下茶 七 香自一 香自一 香自一
 一 大茶一 〇 香自起 〇 香自起
 一 大茶一 一 香自起 一 香自起
 一 大茶一 一 香自起 一 香自起
 一 大茶一 一 香自起 一 香自起
 二 大茶一 一 香自起 一 香自起
 三 大茶一 一 香自起 一 香自起
 三 大茶一 一 香自起 一 香自起
 三 大茶一 一 香自起 一 香自起

改廢ノ箇所ハ傍線ヲ施
 シテ之ヲ示ス

(一四) 硫酸アンモニア増産及配給統制法……………二六

五 租税法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律……………二九

(一) 恩給金庫法……………二九

(二) 家畜保險法……………二九

(三) 海運組合法……………二九

(四) 漁業法……………三〇

(五) 軍馬資源保護法……………三〇

(六) 競馬法……………三〇

(七) 工業組合法……………三〇

(八) 國稅徵收法……………三一

(九) 産業組合法……………三一

(一〇) 産業組合自治監査法……………三一

(一一) 産業組合中央金庫法……………三一

(一二) 重要肥料業統制法……………三一

(一三) 商工會議所法……………三一

(一四) 商工組合中央金庫法……………三一

(一五) 庶民金庫法……………三一

(一六) 造船事業法……………三一

(一七) 退職積立金及退職手當法……………三一

(一八) 取引所法……………三四

(一九) 日本銀行納付金法……………三四

(二〇) 農業倉庫業法……………三五

(二一) 農業保險法……………三五

(二二) 復興貯蓄債券法……………三五

(二三) 保險業法……………三五

(二四) 酪農業調整法……………三六

所得稅法人稅內外各地關涉法

改正法 (所得稅法人稅內外各地關涉法)

第一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

第二條 朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人、此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人(關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ヲ除ク)又ハ此等ノ地域ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ配當利子所得ニ付テハ同法第二十二條第一項ノ規定ニ拘ラズ同法第二十一條第一項又ハ第二項ニ規定スル稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス關東州ニ住所ヲ有シ若ハ一年以上居所ヲ有スル個人又ハ關東州ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付亦同ジ

第三條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

現行法 (大正九年法律第十二號)

第一條 所得稅法ハ朝鮮、臺灣及樺太ニハ之ヲ施行セス
第五條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第三條第二種乙及第三種ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス

第六條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス

一 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得税ヲ課スル公債、社債、朝鮮金融債券又ハ預金ノ利子及合同運用信託ノ利益

二 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ配當税ヲ課シ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ普通配當税ヲ課スルモノ

三 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得税ヲ課スル一時恩給及退職給與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第四條 所得税法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得税法第十條ニ規定スル不動産所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於ケル資産ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ同法第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ八ノ税率ニ依リ分類所得税ヲ賦課ス

前項ニ規定スル個人ノ所得税法第十條ニ規定スル甲種ノ事業所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル營業ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同法第二十一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依リ分類所得税ヲ賦課ス

一 所得税法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依リ控除前ノ事業所得ノ金額ガ千圓ヲ超ユルトキ 百分ノ七
二 前號ノ金額ガ千圓以下ナルトキ 百分ノ四・五
所得税法第二十一條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テハ準用ス

第一項ニ規定スル個人ノ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配中ニ朝鮮又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ資本利子税ヲ課スルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ所得税法第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ六ノ税率ニ依リ分類所得税ヲ賦課ス

第五條 信託會社ガ其ノ引受ケタル合同運用信託ノ信託財産ニ付朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得税及資本利子税ハ各之ヲ所得税法ニ依リ納付シタル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得税ト看做シ同法第二十三條ノ規定ヲ適用ス

第六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得税法第二十八條ニ規定スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得税法ニ依リ綜合所得税ヲ課セズ

第七條 所得税法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得税ヲ課スルモノハ所得税法第三十條第一項第三號ノ規定ニ拘ラズ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額ニ依リ個人ノ總所得ヲ算出ス

第八條 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生ズル所得ニ付テハ所得税法第十一條第一項第七號及第二十九條第一號ノ規定ヲ適用セズ

第三條ノ第二項 信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財産ニ付朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得税額ニ付テハ所得税法第二十二條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第五條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得税法第三條第二種乙及第三種ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得税法ニ依リ所得税ヲ課セズ

第四條 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生ズル所得ニ付テハ所得税法第十八條第六號ノ規定ヲ適用セズ

第九條 配當利子特別税法第十三條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ利益配當稅若ハ公債及社債利子稅ヲ課セラレ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ超過配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ之ヲ準用ス

外貨債特別税法第十八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人税法第三條第一號ノ所得ニ付テハ同法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ三ノ稅率ニ依リ法人稅ヲ賦課ス

朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人税法第三條第二號ノ所得及同條第三號ノ資本ニ付テハ法人税法ニ依ル法人稅ヲ課セズ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人税法第三條第二號ノ所得ニ付亦同ジ

第十一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋群島又ハ法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ所得及資本並ニ清算所得ニ付法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ノ所得及資本ニ付テハ法人税法第十六條ノ規定ニ拘ラズ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル第一種ノ所得ニ對スル所得稅額及法人資本稅額ノ合計額(南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ニ在リテハ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ノミニ依ル)ニ相當スル金額ヲ以テ法人稅ノ稅額トス

第十二條 法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル又ハ納付スベキ各當該地ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ之ヲ法人稅ト看做シ法人税法第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 法人ノ所有スル國債ノ利子ガ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ公債及社債利子稅ヲ課セラルルモノナルトキハ當該公債及社債利子稅ヲ配當利子特別稅ト看做シ法人税法第十三條ノ規定ヲ適用ス

第十四條 法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ各事業年度ノ所得中ニ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ法人税法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ十五ノ稅率ニ依リ法人稅ヲ賦課ス

第十五條 法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅及資本利子稅、臺灣ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル配當稅並ニ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル普通配當稅ハ之ヲ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得

第二條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅法第三條第一種甲及乙並第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス

第三條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋群島又ハ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ所得稅法第十二條ノ規定ヲ準用ス

第三條ノ第二項 法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ニ付テハ所得稅法第二十一條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

税ト看做シ法人税法第十六條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ所得税ヲ免除スル各當該地ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得税法ニ依ル所得税及法人税法ニ依ル法人税ヲ免除ス

第十七條 前條ノ規定ニ該當スル事業ガ製鐵事業法ニ依リ所得税又ハ所得ニ對スル法人税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ製鐵事業ニ相當スルモノナルトキハ之ヲ所得税法施行地ニ在ル製鐵事業又ハ法人税法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵事業法第七條第三項(第十條、第十一條第二項及第四十三條ノ二)第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ金額又ハ製鐵事業法第四十二條ノ規定ニ依リ適用セラルル製鐵業獎勵法第二條第三項ノ金額ヲ計算ス
前項ノ規定ハ輕金屬製造事業法、航空機製造事業法、人造石油製造事業法其ノ他ノ法律ニ依リ所得ニ對スル法人税ヲ免除スル事業ノ一部ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在ル場合ニ於テ各其ノ法律ノ規定スル所ニ依リ當該事業ヨリ生ズル所得中一定金額ヲ超過スル部分ニ對シ法人税ヲ免除セザルトキニ於ケル其ノ超過額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

附則

第十八條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 大正九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

第二十條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得税並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス

法人ノ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得税並ニ本法施行前ニ

第二十一條 法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得税並ニ本法施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得税ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十二條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得税法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金及所得税法第二十一條第二項ニ規定スル預金ノ利子並ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内利子又ハ利益ノ支拂ヲ受クル者ノ申請ニ依リ利子又ハ利益支拂ノ際其ノ利子金額又ハ利益金額ヲ課税標準トシ百分ノ十五ノ税率ニ依リ綜合所得税ヲ賦課スルコトヲ得

所得税法第六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
第二十三條 所得税法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ利子又ハ利益ノ支拂ノ際第三種ノ所得トシテ所得税ヲ課シタルモノニ付テハ當分ノ内所得税法ニ依ル綜合所得税ヲ課セズ

第七條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ所得税ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生ズル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得税法ニ依ル所得税ヲ免除ス

第七條ノ二 前條ノ規定ニ該當スル製造業カ製鐵事業法ニ定ムル能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ナルトキハ之ヲ所得税法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵事業法第七條第三項ノ金額又ハ製鐵事業法第四十二條ノ規定ニ依リ適用セラルル製鐵業獎勵法第二條第三項ノ金額ヲ計算ス

大正十三年法律第六號(外國船舶ノ所得稅及營業
收益稅免除ニ關スル法律)中改正法律

改 正 法

日本ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所
得及純益ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス但シ其ノ船籍
國カ日本船舶ノ所得及純益ニ付同様ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ
在ラス

現 行 法

日本ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所
得及純益ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ所得
及純益ニ付同様ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年法律第九十四號(支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租税ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル法律)中改正法律

改正法

第一條 政府ハ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十二年以降ノ分ノ第三種所得税、地租及營業收益税ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ輕減又ハ免除スルコトヲ得

支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十五年以降ノ分ノ所得税及營業税ニ付亦前項ニ同ジ

第二條 政府ハ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ昭和十三年以降ノ分ノ

第三種所得税及營業收益税ニ付命令ヲ以テ課税標準ノ決定ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十五年以降ノ分ノ所得税及營業税ニ付亦前項ニ同ジ

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

現行法

第一條 政府ハ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十二年以降ノ分ノ第三種所得税、地租及營業收益税ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二條 政府ハ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ昭和十三年以降ノ分ノ

第三種所得税及營業收益税ニ付命令ヲ以テ課税標準ノ決定ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

アルコール製造事業等ニ對スル所得稅等ノ免除規定ノ

改正ニ關スル法律 (上段ハ改正法、下段ハ現行法ヲ掲グ)

アルコール專賣法

改正法

第四十二條 本法ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケアルコールヲ製造スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

法人ノ前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ特許又ハ委託ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
前三項ノ規定ハ特許又ハ委託ヲ受ケタル者ガ其ノ製造場ヲ新設シタル場合ニ付之ヲ準用ス

現行法

第四十二條 本法ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケアルコールヲ製造スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス
前項ノ規定ハ特許又ハ委託ヲ受ケタル者ガ其ノ製造場ヲ新設シタル場合ニ付之ヲ準用ス

北支那開發株式會社法

第三十一條 北支那開發株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ一第三十一條 北支那開發株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ

翌年ヨリ十年間所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

北支那開發株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條ノ規定ニ依ル投資又ハ融資ヨリ生ズル北支那開發株式會社ノ甲種ノ配當利子所得ニシテ第一項ニ規定スル法人税及營業税ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得税ヲ課セズ

第三十二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間北支那開發株式會社ニハ同條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税附加税ヲ除クノ外其ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

輕金屬製造事業法

第七條 輕金屬製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム輕金屬製造事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

第七條 輕金屬製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム輕金屬製造事業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム輕金屬製造事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ輕金屬製造會社其ノ設備完成前其ノ一部ヲ以テ輕金屬製造事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス但シ第一項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル輕金屬製造會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課税スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第七條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ第七條ノ規定ニ依ル所得ニ對スル法人税及營業税免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

工作機械製造事業法

翌年ヨリ十年間所得税及營業收益税ヲ免除ス

第三十二條 北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間北支那開發株式會社ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

第八條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ヲ免除セラレタル輕金屬製造會社ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課税スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第七條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ第七條ノ規定ニ依ル所得税及營業收益税免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第七條 工作機械製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府

第七條 工作機械製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府

ノ指定スル期間ニ内命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム工作機械製造事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム工作機械製造事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ工作機械製造會社其ノ設備完成前其ノ一部ヲ以テ工作機械製造事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス但シ第一項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル工作機械製造會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課税スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ之ノ限ニ在ラズ

第九條 第七條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ第七條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税免除期間内ニ在

トキハ其ノ期間ヲ承繼ス

航空機製造事業法

第九條 航空機製造會社ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ第二條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル航空機製造會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課税スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

國際電氣通信株式會社法

第十四條ノ六 國際電氣通信株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年

第十四條ノ六 國際電氣通信株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年

ルノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム工作機械製造事業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス

前項ノ工作機械製造會社其ノ設備完成前其ノ一部ヲ以テ工作機械製造事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ヲ免除セラレタル工作機械製造會社ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課税スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第七條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ第七條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間

ヲ承繼ス

第九條 航空機製造會社ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス

第十條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ヲ免除セラレタル航空機製造會社ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課税スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一月一日ヨリ十年間其ノ通信ケーブル設備ヲ以テ營ム事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生スル所得又ハ純益カ毎營業期ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ昭和十五年一月一日ヨリ四年間ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條ノ七 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル國際電氣通信株式會社ノ事業ニ對シテハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外地方税ヲ課スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

自動車製造事業法

第六條 自動車製造會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ第三條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル自動車製造會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課税スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

人造石油製造事業法

第六條 人造石油製造會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル人造石油製造會社ニハ前條

一月一日ヨリ十年間其ノ通信ケーブル設備ヲ以テ營ム事業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス

第十四條ノ七 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ヲ免除セラレタル國際電氣通信株式會社ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 自動車製造會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ヲ免除セラレタル自動車製造會社ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課税スルコトヲ得ズ

第六條 人造石油製造會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間人造石油製造會社ニハ其ノ事業ニ對シ又ハ其ノ事業ニ屬スル資本金額、從業者、

第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

製 鐵 事 業 法

第七條 第三條ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第五條、法人稅法第十二條又ハ營業稅法第十二條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第三條ノ許可又ハ第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ

政府ノ指定スル期間内ニ砂鐵又ハ命令ヲ以テ定ムル鐵鑛ノ製鍊ヲ目的トスル特殊ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタル製鐵事業者ニハ其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付第七條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 砂鐵又ハ前條ノ鐵鑛ヲ配合シテ製銑ヲ爲ス製鐵事業者ニハ配合ノ割合ニ應ジ其ノ製鐵事業ニ付本法施行ノ日ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

第七條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ製鐵事業ニ付之ヲ準用ス

第十二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ本法ニ依リ(第七條第三項但書ノ場合ヲ含ム)所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ第七條第三項(第十條及前條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除セラレタル事業ニハ之ヲ適用セズ但シ其ノ事業ガ第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 製鐵事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前製鐵事業者ガ本法ニ依ル所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

製造若ハ加工ノ用ニ供スル器具機械類、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ズ

第七條 第三條ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第三條ノ許可又ハ第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ

政府ノ指定スル期間内ニ砂鐵又ハ命令ヲ以テ定ムル鐵鑛ノ製鍊ヲ目的トスル特殊ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタル製鐵事業者ニハ其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付第七條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第十一條 砂鐵又ハ前條ノ鐵鑛ヲ配合シテ製銑ヲ爲ス製鐵事業者ニハ配合ノ割合ニ應ジ其ノ製鐵事業ニ付本法施行ノ日ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第十二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ本法ニ依リ(第七條第三項但書ノ場合ヲ含ム)所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ第七條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル所得稅及營業收益稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ズ但シ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル事業ニハ之ヲ適用セズ但シ其ノ事業ガ第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 製鐵事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前製鐵事業者ガ本法ニ依ル所得稅及營業收益稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第四十二條 本法施行ノ際現ニ製鐵業獎勵法ニ依リ所得稅、營業收益稅及地方稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ所得稅、營業收益稅及地方稅ヲ免除ス

本法施行ノ際現ニ製鐵業獎勵法第二條乃至第四條ノ規定ニ依ル認可ヲ申請中ノ者ニ對スル所得稅、營業收益稅及地方稅ノ免除ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

前二項ノ規定ノ適用ヲ受クル者第十一條ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テハ第十二條ノ規定ニ拘ラズ前二項ノ規定ニ依リ地方稅ノ免除ヲ受ク

第一項ノ製鐵事業ヲ營ム者及前二項ニ規定スル者ニ對スル昭和十五年度分以降ノ地方稅ノ免除ニ關シテハ前三項ノ規定ニ拘ラズ第十二條ノ例ニ依ル

第四十三條ノ二 昭和十五年四月一日以降ニ於テハ前二條中所得稅トアルハ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅トシ營業收益稅トアルハ營業稅トス
第七條第三項及第四項ノ規定ハ前條ニ規定スル者ニ對シ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除スベキ場合ニ付之ヲ準用ス

大日本航空株式會社法

第三十條 大日本航空株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其

ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業稅ヲ免除ス

大日本航空株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條ノ規定ニ依リ投資又ハ融資ヨリ生ズル大日本航空株式會社ノ甲種ノ配當利子所得ニシテ第一項ニ規定スル法人稅及營業稅ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得稅ヲ課セズ

第三十一條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除セラレタル期間大日本航空株式會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條 本法施行ノ際現ニ製鐵業獎勵法ニ依リ所得稅、營業收益稅及地方稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ所得稅、營業收益稅及地方稅ヲ免除ス

本法施行ノ際現ニ製鐵業獎勵法第二條乃至第四條ノ規定ニ依ル認可ヲ申請中ノ者ニ對スル所得稅、營業收益稅及地方稅ノ免除ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

前二項ノ規定ノ適用ヲ受クル者第十一條ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テハ第十二條ノ規定ニ拘ラズ前二項ノ規定ニ依リ地方稅ノ免除ヲ受ク

第一項ノ製鐵事業ヲ營ム者及前二項ニ規定スル者ニ對スル昭和十五年度分以降ノ地方稅ノ免除ニ關シテハ前三項ノ規定ニ拘ラズ第十二條ノ例ニ依ル

第四十三條ノ二 昭和十五年四月一日以降ニ於テハ前二條中所得稅トアルハ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅トシ營業收益稅トアルハ營業稅トス
第七條第三項及第四項ノ規定ハ前條ニ規定スル者ニ對シ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除スベキ場合ニ付之ヲ準用ス

大日本航空株式會社法

第三十條 大日本航空株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其

ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

大日本航空株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條ノ規定ニ依リ投資又ハ融資ヨリ生ズル大日本航空株式會社ノ甲種ノ配當利子所得ニシテ第一項ニ規定スル法人稅及營業稅ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得稅ヲ課セズ

第三十一條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル期間大日本航空株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

帝國鑛業開發株式會社法

第三十一條 帝國鑛業開發株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其

ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業稅ヲ免除ス

帝國鑛業開發株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百

第三十一條 帝國鑛業開發株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其

ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通又ハ投資ヨリ生ズル帝國鑛業開發株式會社ノ甲種ノ配當利子所得ニシテ第一項ニ規定スル所得ニ對スル法人税及營業税ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得税ヲ課セズ

第三十二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル期間帝國鑛業開發株式會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

帝國燃料興業株式會社法

第三十二條 帝國燃料興業株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

帝國燃料興業株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル

所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條ノ規定ニ依リ投資ヨリ生ズル帝國燃料興業株式會社ノ甲種ノ配當利子所得ニシテ第一項ニ規定スル法人税及營業税ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得税ヲ課セズ

第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ前條ノ期間帝國燃料興業株式會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

日本產金振興株式會社法

第三十二條 日本產金振興株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

日本產金振興株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ヲ免除セラレタル期間帝國鑛業開發株式會社ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 帝國燃料興業株式會社ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得税及營業收益税ヲ免除ス

第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ前條ノ期間帝國燃料興業株式會社ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 日本產金振興株式會社ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得税及營業收益税ヲ免除ス

第十二條ノ規定ニ依ル資金ノ融通又ハ投資ヨリ生ズル日本産金振興株式會社ノ甲種ノ配當利子所得ニシテ第一項ニ規定スル法人税及營業税ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得税ヲ課セズ

第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間日本産金振興株式會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

硫酸アンモニア増産及配給統制法

第一條 政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル硫酸アンモニア製造設備ノ新設又ハ増設ヲ爲シタル硫酸アンモニア製造業者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ設備ヲ以テ營ム硫酸アンモニア製造業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム硫酸アンモニア製造業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ硫酸アンモニア製造業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ硫酸アンモニア製造業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル硫酸アンモニア製造業者ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 硫酸アンモニア製造業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ム可キ事實アル者ハ前事業者ガ本法ニ依ル所得ニ對スル法人税及營業税免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人税及法人ノ營業税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ本法ニ依ル各法律ノ改正規定ヲ適用シ個人ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得及純益ニ對スル所得税及營業税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ第九條ノ規定ニ依ル製鐵事業法ノ改正規定ヲ適用シ地方税ニ付テハ昭和十五年度分ヨリ本法ニ依ル各法律ノ改正規定ヲ適用ス

第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間日本産金振興株式會社ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

硫酸アンモニア増産及配給統制法

第一條 政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル硫酸アンモニア製造設備ノ新設又ハ増設ヲ爲シタル硫酸アンモニア製造業者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ設備ヲ以テ營ム硫酸アンモニア製造業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス

前項ノ硫酸アンモニア製造業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ硫酸アンモニア製造業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ硫酸アンモニア製造業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ硫酸アンモニア製造業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ヲ免除セラレタル硫酸アンモニア製造業者ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 硫酸アンモニア製造業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ム可キ事實アル者ハ前事業者ガ本法ニ依ル所得税及營業收益税免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得及純益ニ對スル所得稅及營業收益稅、法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅、個人ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得及純益ニ對スル昭和十四年度分以前ノ所得稅及營業收益稅並ニ昭和十四年度分以前ノ地方稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

租稅法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律 (上段ハ改正法、下段ハ現行法ヲ掲グ)

恩給金庫法

改正法

第十條 恩給金庫ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ(後略)
第四十一條 所得稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ恩給債券ニ之ヲ準用ス

現行法

第十條 恩給金庫ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ(後略)
第四十一條 所得稅法、資本利子稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ恩給債券ニ之ヲ準用ス

家畜保險法

第八條 組合ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第八條 組合ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

海運組合法

第三十二條 海運組合及海運組合聯合會ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第三十二條 海運組合及海運組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

漁業法

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅、法人稅、營業稅及營業收益稅ヲ課セス

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セス

軍馬資源保護法

第十四條 軍用保護馬鍛鍊中央會ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セス(後略)

第十四條 軍用保護馬鍛鍊中央會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セス(後略)

競馬法

第十六條 (第一項)日本競馬會ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セス

第十六條 (第一項)日本競馬會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セス

工業組合法

第三十三條ノ九 工業小組合ニハ營業稅ヲ課セス

第三十三條ノ九 工業小組合ニハ營業收益稅ヲ課セス

國稅徵收法

第四條ノ五 既納ノ稅金過納ナルトキハ其ノ稅金ノ屬スル年度内ノ他ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得

第四條ノ五 同年ノ所得稅、地租、營業收益稅、資本利子稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得

産業組合法

第六條 産業組合ニハ所得稅、法人稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス

第六條 産業組合ニハ所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス

産業組合自治監査法

第六條 産業組合監査聯合會ニハ所得稅及法人稅ヲ課セス(第二項略)

第六條 産業組合監査聯合會ニハ所得稅ヲ課セス(第二項略)

産業組合中央金庫法

第八條 (第一項)産業組合中央金庫ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セス

第八條 (第一項)産業組合中央金庫ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セス

重要肥料業統制法

第九條 肥料製造業組合ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第九條 肥料製造業組合ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

商工會議所法

第十四條 (第一項第一號、第二號略)

第十四條 (第一項第一號、第二號略)

三 自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者、取引所又ハ鑛業權者ニシテ商工會議所ノ地區内ニ於テ營業稅又ハ取引所特別稅ヲ一年間ニ命令ノ定ムル額以上納ムルコト但シ地區外ニモ營業場ヲ有スル者ノ納稅額ノ算出方法ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(第二項、第三項略)

三 自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者、取引所又ハ鑛業權者ニシテ商工會議所ノ地區内ニ於テ營業收益稅、取引所營業稅又ハ鑛產稅ヲ一年間ニ命令ノ定ムル額以上納ムルコト但シ地區外ニモ營業場ヲ有スル者ノ納稅額ノ算出方法ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(第二項、第三項略)

商工組合中央金庫法

第二十二條 商業組合中央金庫ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第二十二條 商業組合中央金庫ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第三十六條 所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ商業債券ニ之ヲ準用ス

第三十六條 所得稅法、資本利子稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ商業債券ニ之ヲ準用ス

庶民金庫法

第八條 庶民金庫ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ(後略)

第八條 庶民金庫ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ(後略)

第二十六條 所得稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ庶民債券ニ之ヲ準用ス

第二十六條 所得稅法、資本利子稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ庶民債券ニ之ヲ準用ス

造船事業法

第三十八條 造船組合及造船組合聯合會ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第三十八條 造船組合及造船組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

退職積立金及退職手當法

第十九條 事業主ハ退職手當積立金ヨリ生ジタル利子(分類所得稅ヲ課セラ

第十九條 事業主ハ退職手當積立金ヨリ生ジタル利子(第二種所得稅又ハ資本利子稅ヲ課セラ

レタルトキハ之ヲ差引キタル金額)及第二十一條第一項ノ規定ニ依リ退職手當積立金ヲ運用シタル場合ニ於テハ同條同項ノ利子ヲ退職手當積立金トシテ遲滞ナク積立ツベシ(後略)

ノ規定ニ依リ退職手當積立金ヲ運用シタル場合ニ於テハ同條同項ノ利子ヲ退職手當積立金トシテ遲滞ナク積立ツベシ(後略)

第二十二條 本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得税法、法人税法、營業税法及臨時利得税法ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス(後略)

第二十二條 本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得税法、營業收益税法及臨時利得税法ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス(後略)

取引所法

第三十條ノ二 會員組織ノ取引所ニハ營業稅ヲ課セス

日本銀行納付金法

日本銀行ハ事業年度毎ニ純益金ヨリ左ニ掲グル金額ヲ控除シタル殘額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スベシ

日本銀行ハ事業年度毎ニ純益金ヨリ左ニ掲グル金額ヲ控除シタル殘額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スベシ

- 一 拂込資本金額ニ對スル年六分ニ相當スル金額
- 二 日本銀行條例第十條ノ規定ニ依リ積立ツベキ金額ノ最少額ニ相當スル金額

- 一 拂込資本金額ニ對スル年六分ニ相當スル金額
- 二 日本銀行條例第十條ノ規定ニ依リ積立ツベキ金額ノ最少額ニ相當スル金額

純益金ヨリ前項第一號及第二號ノ金額及前項ノ規定ニ依ル納付金額ヲ控除シタル殘額ガ拂込資本金額ニ對シ年四分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ノ四分ノ三ヲ更ニ政府ニ納付スベシ

純益金ヨリ前項第一號及第二號ノ金額及前項ノ規定ニ依ル納付金額ヲ控除シタル殘額ガ拂込資本金額ニ對シ年四分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ノ四分ノ三ヲ更ニ政府ニ納付スベシ

本法ニ依ル納付金額ハ法人税法ニ依ル所得、營業税法ニ依ル純益及臨時利得

本法ニ依ル納付金額ハ所得税法ニ依ル所得、營業收益税法ニ依ル純益及臨時

税法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

利得税法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

本法ニ依ル納付金ハ前事業年度分ヲ八月末日、後事業年度分ヲ翌年二月末日限政府ニ納付スベシ

本法ニ依ル納付金ハ前事業年度分ヲ八月末日、後事業年度分ヲ翌年二月末日限政府ニ納付スベシ

農業倉庫業法

第十四條 農業倉庫業者ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セス

第十四條 農業倉庫業者ニハ所得稅、營業收益稅ヲ課セス

農業保險法

第七條 農業保險組合ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セス

第七條 農業保險組合ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セス

復興貯蓄債券法

第六條 復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登録稅ヲ、復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得稅及法人稅ヲ課セス

第六條 復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登録稅ヲ、復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得稅ヲ課セス

保險業法

第八十一條 相互會社ニハ營業稅ヲ課セス

第八十一條 相互會社ニハ營業收益稅ヲ課セス

酪農業調整法

第九條 製酪業組合ニハ所得税、法人税及營業税ヲ課セズ

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

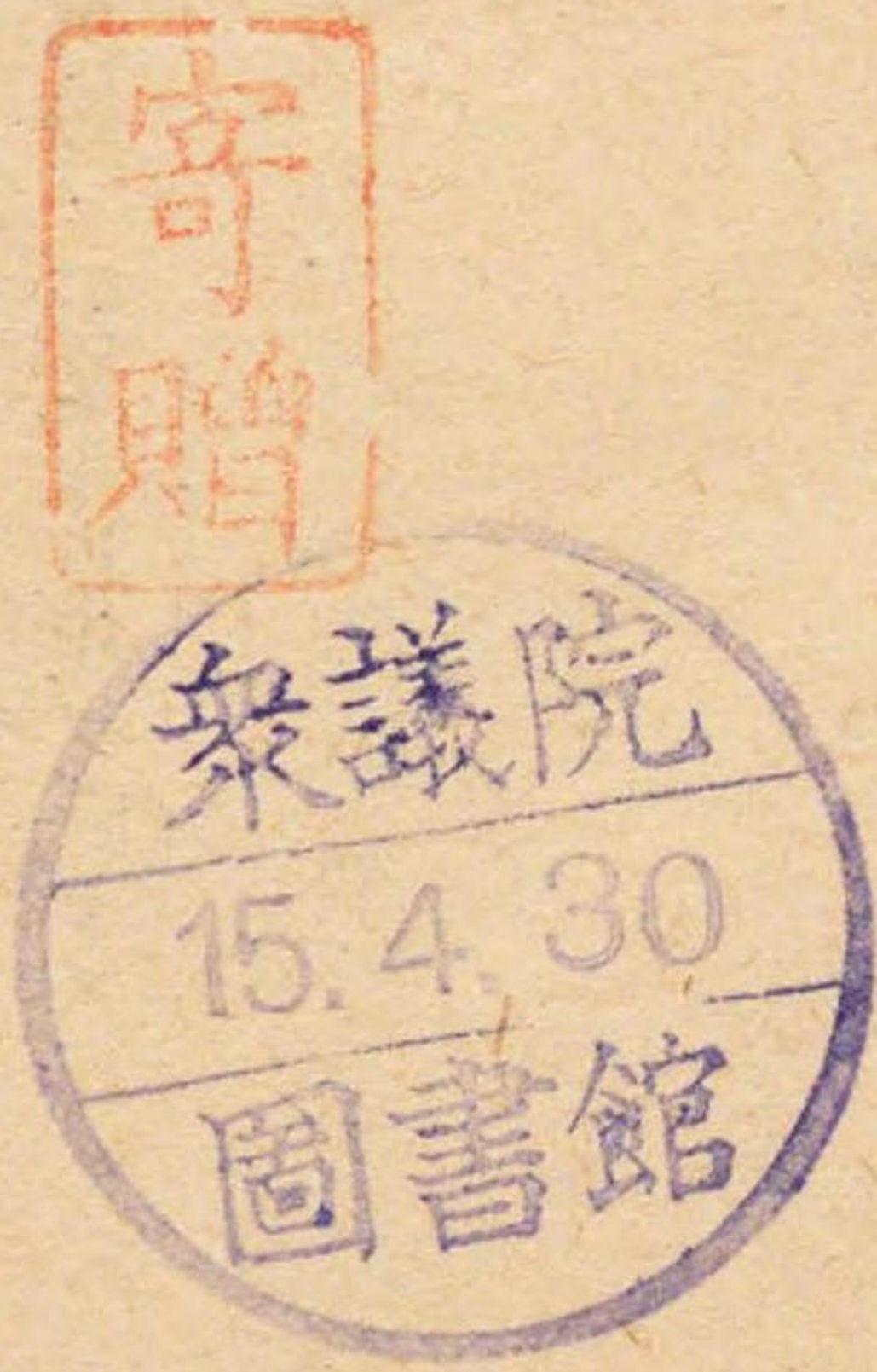
昭和十六年三月三十一日迄ハ商工會議所法第十四條ノ改正規定ニ拘ラズ同條

第一項第三號ノ納税ニ關スル條件ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

日本銀行納付金法第三項ノ改正規定ハ日本銀行ノ昭和十五年前事業年度分ヨ

リ之ヲ適用ス

第九條 製酪業組合ニハ所得税及營業收益税ヲ課セズ



3330
121

